

令和7年度 金ヶ崎町立三ヶ尻小学校 研究計画

Ⅲ 研究部

1 本年度の研究・研修計画

(1) 研究の基本的考え方

- ア 学校教育目標達成のため、各種の研究・研修を通して教員自身の専門的知識を高め、実践的指導力を養い、児童の変容を期待する。
- イ 校内の実践上の問題解決を図るため、共通テーマのもと、研究体制の確立を図り、組織的、計画的な研究活動を進める。
- ウ 研究・研修活動における理論と実践を一体化し、一人一人の授業力を高めるようにする。
- エ 児童とともに学び、ともに成長するように、常に自己変革を目指し、求め続ける姿勢で研究・研修に取り組む。

(2) 方針

- ア 授業研究を実践し、児童の姿を通じた研究協議を深める中で、授業の質的向上を図る。
- イ 研究主題を設定して、本校の教育課題解決のため、研究を深める。
- ウ 主題研究の他、特別支援教育、実技研修、生徒指導などにおいて、共通理解を深め、日常の教育実践に生かす。
- エ 日々の授業実践では、常に反省、評価を加え、次の授業の改善の手がかりとする。

(3) 本年度の重点

- ア 主題研究において本校の課題を踏まえ、効果的な指導法の工夫や改善に努める。
- イ 年度初めに研究内容についての共通理解を図り、教員個々の見通しをもった授業改善の推進に努める。
- ウ 特別な支援の必要な児童への配慮の仕方を学ぶために、特別支援学級の授業研究会を年間計画の中に設定し、指導力向上を図る。
- エ 外国語教育の質の向上に向け、外国語活動または外国語の授業研究会を年間計画の中に設定し、指導力向上を図る。
- オ ICT活用の推進や家庭学習の質の向上に向けた学習会を設定し、教職員間の共通理解を図るとともに、指導力向上を図る。
- カ 各種研究会への参加及び伝講を行い、職員の専門性、指導力、授業力の向上を図る。

2 主題研究

(1) 研究主題

主体的に対話し追究し合う児童の育成
— 追究的対話を成立させる学習過程各段階の工夫を通して —

(2) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）では、各教科等の指導に当たっては、「知識及び技能が習得されるようにすること」、「思考力、判断力、表現力等を育むこと」、「学びに向かう力、人間性等を涵養すること」が偏りなく実現されるように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが示されている。

近年、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化等、社会が急速に変化し、予測困難な時代となってきた。このような時代の中、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことなどの力を身に付けることが求められている。また、小学校学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、カリキュラム・マネジメントを通して学習の効果の最大化を図る必要があると述べられており、小学校学習指導要領解説総則編では、「主体的・対話的で深い学び」について次のように解説されている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが求められている。

【3つの視点】

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

この「主体的・対話的で深い学び」を創り上げていくには、授業の中で「めざす子どもの姿」を意識し、その姿を実現するためにどのように教師が働きかけをしていくのかが問われることになる。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善をしていくことで、本校の課題にも対応していけるものとする。

イ 学校教育目標の具現化から

本校では、「確かな学力を身に付け、豊かな心の育成を図り、健やかな体をはぐくむ」を基本目標とし、具体的な教育目標に「自ら学ぶ子ども」「心の豊かな子ども」「たくましい子ども」を掲げ、知・徳・体の調和が取れた、確かな学力・豊かな人間性・健康と体力をもとにした生きる力の育成を目指している。

算数科における授業改善に取り組み、対話を通して主体的に学ぶに向かう児童の育成をめざすことは、本校の教育目標の具現化につながるものとする。

ウ 研究経過と児童の実態から

令和5年度は、令和4年度の研究内容の焦点化を図り、児童の「主体性」を育むための手立てをより明確にして研究に取り組むこととした。日々の授業改善を通して、教師主導ではなく児童主体の授業をめざし、課題提示や見通しのもとせ方を工夫すること、友達と関わり合いながら課題解決に取り組ませること、自己の変容に目を向けた振り返りを行わせることにおいて成果が見られた。また、「主体的」に学ぶ児童についてのイメージを職員間で共有することができた。研究を進める中で児童は自分の考えをもち表現することができるようになってきたが、根拠を明確にしながら筋道を立てて相手に考えを説明することには課題が見られた。そのため、全体で学び合う場面において、考えを広げたり深めたり、集団で考えを形成したりする段階まで至らなかった。

そこで令和6年度は、この状況を改善するため、児童が主体的によりよい考えを追究していくための対話をするができるよう、話し合いをファシリテートする指導者の授業力向上が必要と考えた。そこで、国語科・算数科において、学習過程各段階の工夫をし、追究的対話を成立させ、「主体的に対話し追究し合う児童の育成」をめざし、主題を設定した。その成果として、追究的対話のイメージを職員で共有することができ、児童の主体性や対話力が向上してきた。

このことを受け、令和7年度は追究的対話の効果の検証を十分に行っていくため、教科を絞り算数科における学習過程各段階の工夫をし、本主題を昨年度より継続して、進めていくものとする。

(3) 主題についての基本的な考え方

ア 「主体的に学ぶ」とは

- ・問題に対して，児童が自ら問いや課題意識をもち，課題解決に向けて思考，表現しながら関わっていくこと。
- ・児童が解決への意欲や見通しをもちながら，粘り強く取り組んでいくこと。
- ・学習方法や課題解決の過程を振り返ったり，新たな問いを見いだしたりすること。

イ 「主体的に学ぶ児童」の具体の姿

- ・意欲的に問題に取り組もうとする児童
- ・既習を活用しながら，見通しをもって課題を解決しようとする児童
- ・進んで課題解決に取り組み，文や式，図などに表そうとしている児童
- ◎自分の考えを友達に伝えようと，根拠を明確にして表現している児童
- ◎友達の考えを受け止め，自分の考えと比べながら聞いたり，わからないことを質問したりしながら，よりよい解答や考え方を，対話を通して見出そうとする児童
- ・学習したことを別の場面でも生かそうとしている児童
- ◎他者の学びを共感的にとらえたり，自分の学びを客観視したりする児童

(4) めざす子ども像

ア 課題に対する自分の考えをもち，正当性や的確性を検証する児童

イ 根拠に沿った対話に応じて，自分の学びを修正したり高めたりする児童

ウ 主体的に，協働での課題解決に参画する児童

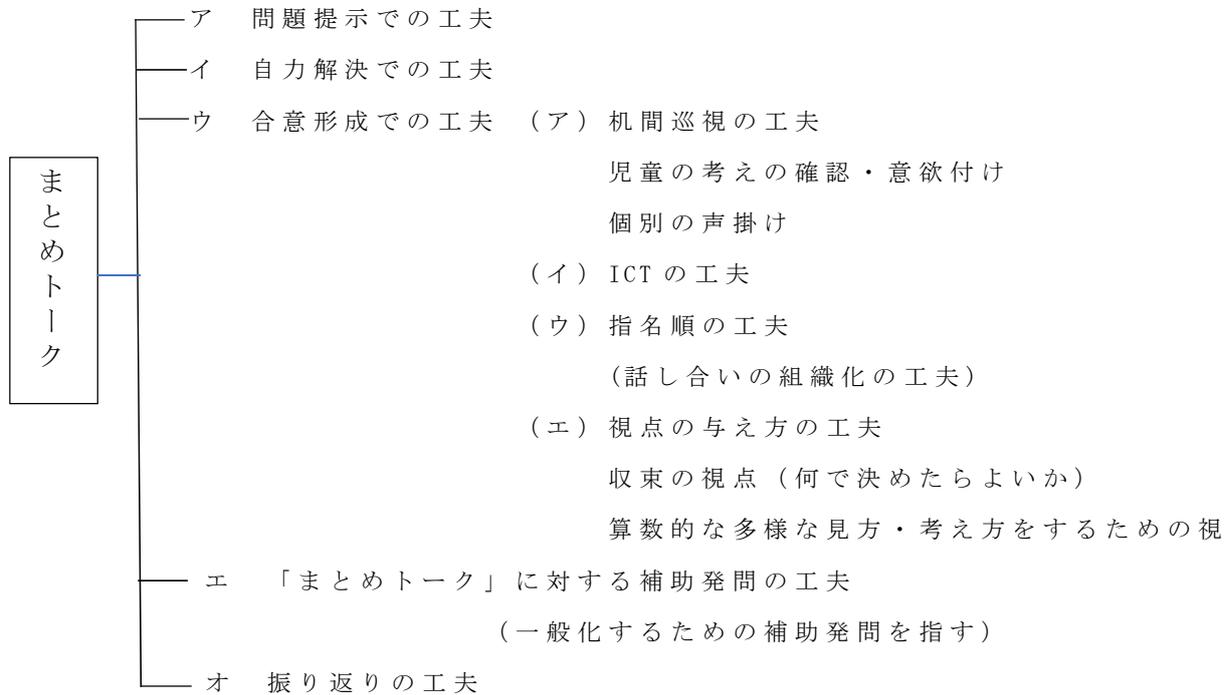
(5) 研究のねらい

主体的な追究的対話の成立に照らした授業改善をすることによって，主題にある児童の育成を図る。

※当主題研究で対象とする対話（以下「まとめトーク」と表記する。）学級の全児童が，「まとめ」を生み出すために，学習を収束させる過程で行う対話に限定して対象とする。その対話の前あるいは「まとめ」後に行われる対話や，ペアやグループでの小規模な対話ではない。

(6) 研究仮説

学習過程各段階において、児童に対して、主体的な追究的対話（まとめトーク）を意図した働きかけを工夫することによって、主体的に対話し追究し合う児童が育成できるのではないか。



※児童の振り返りを、まとめトークの効果を検証する手立ての一つとすることで、児童がまとめトークを行うよさを改めて実感し、主体的に対話し追究する意欲にもつながる。

(7) 研究内容

ア 研究の方法

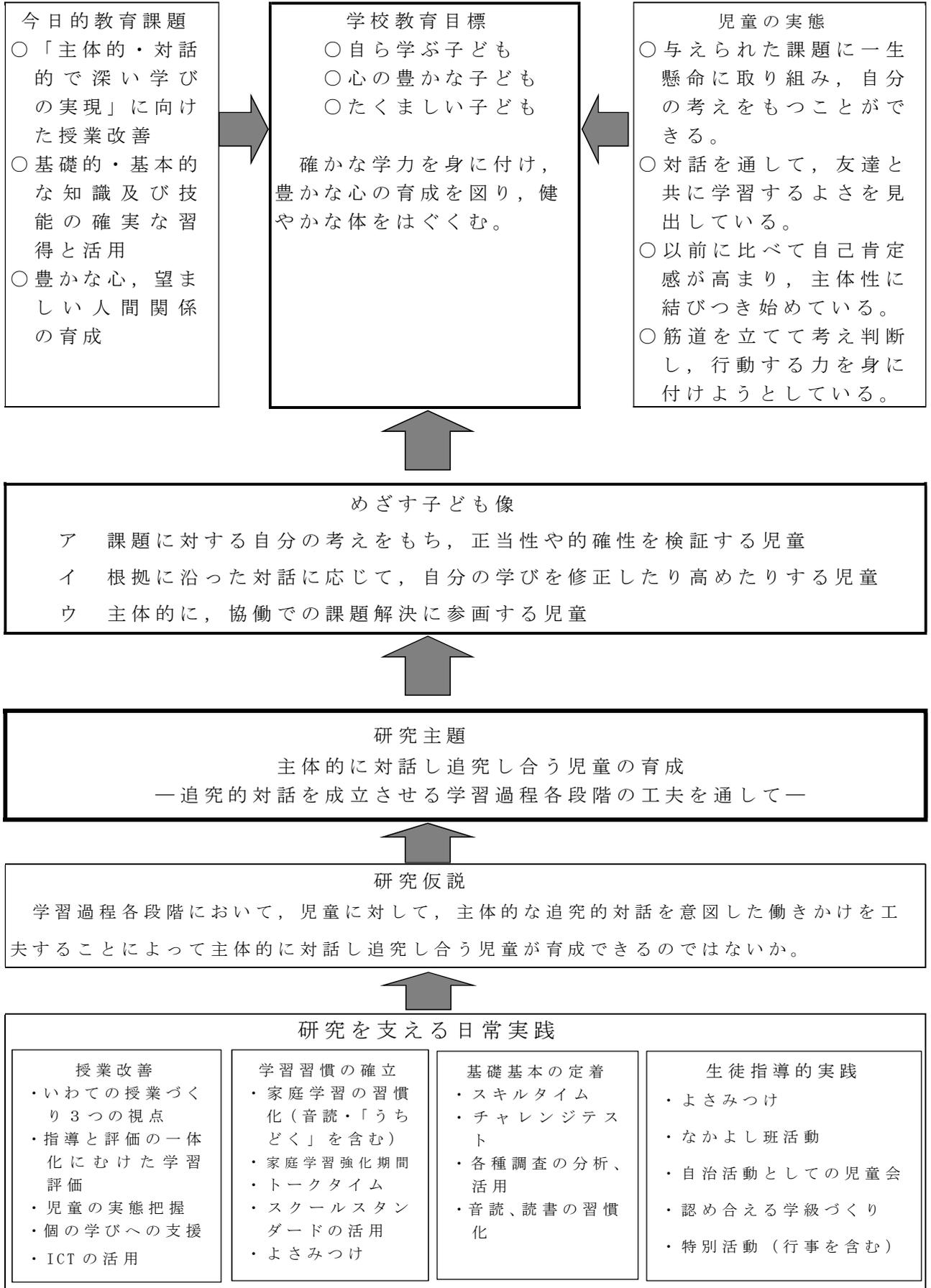
- (ア) 先行研究や先進的な事例に学ぶ。
- (イ) 授業研究会を通して学ぶ。
- (ウ) 授業交流や互見授業を通して学ぶ。
- (エ) 日常の授業で授業改善の積み重ねから学ぶ。

イ 学習過程各段階における具体的授業改善の方向性

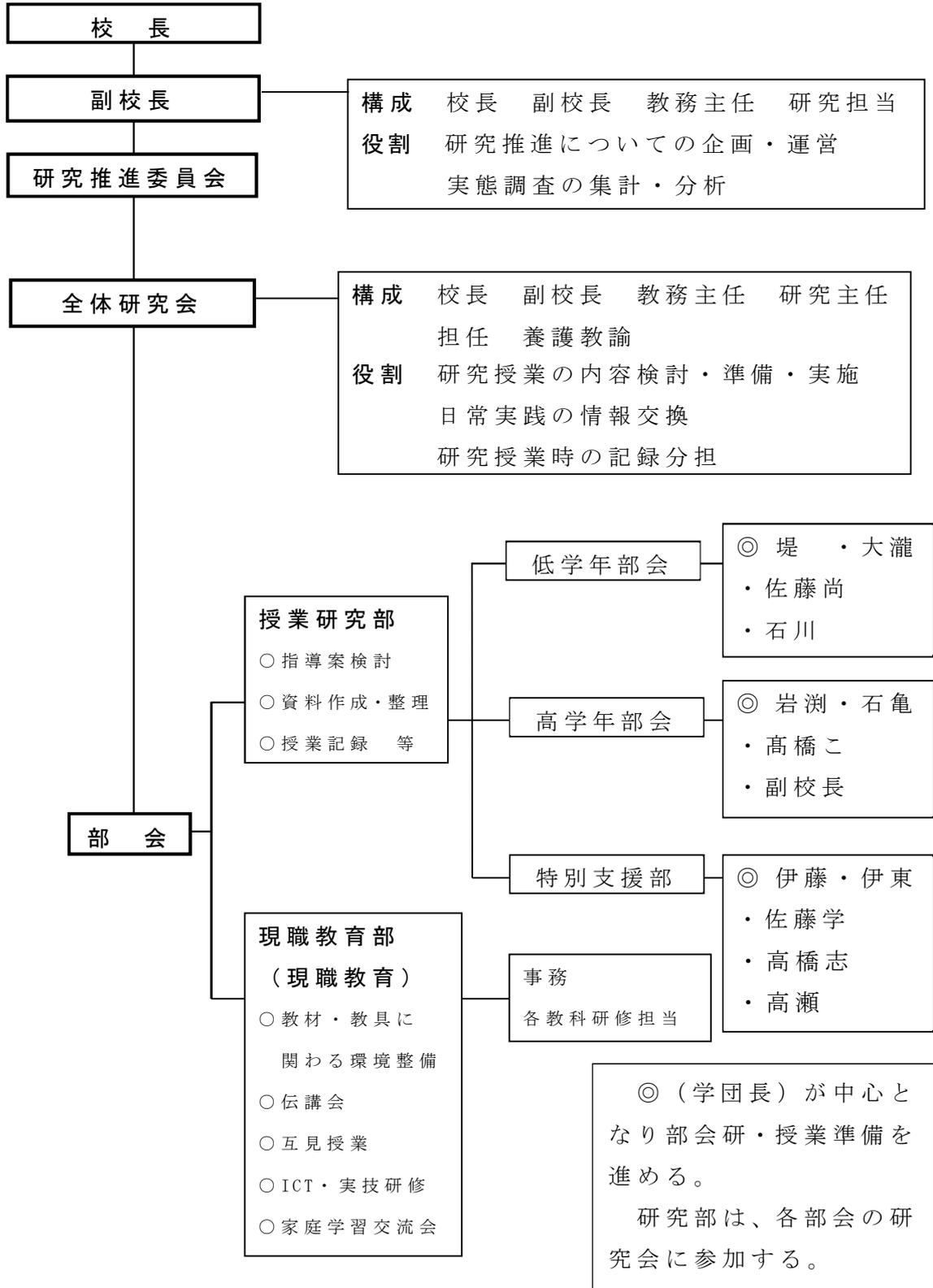
※課題の解決に迫る主体的・追究的な対話「まとめトーク」を成立させるための働きかけとして、以下の（ア）～（オ）を対象とする。

- (ア) 問題解決結果の見通しを児童一人ひとりが確実にもてる
問題提示
- (イ) 自分の考えに根拠，またはその表現を伴わせる自力解決
- (ウ) 教師のファシリテートによる合意形成
- (エ) 「まとめトーク」中，または収束後における教師からの
必要に応じた補助発問
- (オ) 他者の学びを共感的にとらえたり，自分の学びを客観視
したりする振り返り

(8) 研究の全体構想図



(9) 研究の組織と運営



(10) 研究の計画

ア 研究の方向性の共通理解

(ア) 主題研究計画の吟味

(イ) 研究の目標，仮説，内容の共通理解

(ウ) 指導案の形式，授業改善の重点

イ 授業実践

ウ 研究成果の検証，研究のまとめ

(11) 研究・研修日程

回数	月	日	曜日	研究・研修計画	備考
1	4	4	水	新年度計画の確認 主題・研究内容についての共通理解	
2	5	8	木	ICT研修	
3	5	29	木	授業研究会①	
4	6	5	木	授業研究会②	
5	7	3	木	授業研究会③	
6	7	25	金	1学期反省・実技研修・家庭学習交流会	
7	9	4	木	授業研究会④外国語（5年）	講師派遣申請
8	9	11	木	授業研究会⑤	
9	10	30	木	授業研究会⑥	
10	11	13	木	授業研究会⑦	
	11	27	木	金ヶ崎町教育委員会授業訪問	※予定
11	11	28	金	授業研究会⑧	
12	1	15	木	2学期・年間研究のまとめ 次年度の研究について	
13	2	12	木	次年度の研究について	

※授業研究会は算数科・外国語科・特別支援教育で授業を行う。各
部会1回ずつの講師派遣申請を予定。

※部会研は1日2部会行うこともできる。

※授業研究会④は，金ヶ崎町の外国語研修日程により変更あり。

※特別支援学級の授業研究会について

- ・児童の実態や特性，編成によって，対話場面を設定した授業展開とはならないこともある。

- ・ 自立活動と生活単元学習は，異学年児童が交わる授業形態でもよい。
- ・ 教科・領域は問わない。
- ・ 教科書に限らず，教材も特別な教育課程の範囲で自由に選択してよい。（絵本の活用・道徳など）

(12) その他の留意点

研究を支える生徒指導的な実践を通して，児童の主体性を育む。